

9. 宝塚市の解放学級のあゆみ

家庭訪問⇒学力補充学級⇒学力促進学級⇒解放学級⇒廃止

地域住民と教師の闘いから

1957（昭和32）年、阪神競馬場の建設にあたって、建設予定地の耕作保障問題や建設作業者の竣工後の仕事保障問題などが起こり、地域住民と市との交渉が活発に行われました。翌年には地域住民が各種団体と共同して児童生徒の教科書無料配布を市教委に対して要求、数年の交渉を経て、330名の小・中学生に無料配布を勝ち取りました。

その頃、子どもたちは過酷な差別のために不就学児童生徒が多く、教育の機会均等が著しく保障されない状況でした。学力保障や進路保障ができない中で、差別の再生産が繰り返されていきました。

これらの状況を見かねた対象地域の人々や教師が対象地域の集会場で夕方から夜間にかけて子どもたちを集め手弁当で生活の指導や勉強を教えました。

組織的な始まりは宝塚第一中学校から

1959（昭和34）年、宝塚第一中学校の教師は子どもの生活状況を心配し、保護者と膝を付き合わせて話し合いを進めていく中で、隣保館職員と協力し子ども向け映画会を開催したり、学力の遅れを取り戻すための学習会を始めました。また、沖縄出身の子どもや在日韓国・朝鮮人の子どもたちなど社会的差別の重荷を負わされている子どもたちへの取り組みも進められました。さらに綴り方運動の成果に学び、生活を見つめるための作文指導の実践活動が行われ、文集「エンピツ」が発行されるなど精力的な活動が続けられました。「〇〇の子どもを教育を除いて教育は成立しない」が同校の合言葉で、教師が絶えず対象地区を訪問し子どもの教育を中心に据え親と話し合いを続けました。

宝塚中学校や長尾中学校でも

宝塚中学校では、ともすれば勉強から離れがちな子どもに対して、何とか学習に眼を向けさせようとして、地区の子どもの学習態度の育成や生活指導に力点を置いて、1960（昭和35）年後半から第2隣保館で始められた学習会にかかわりながら実践を進めてきました。

長尾中学校の教師は泊まり込みで公会堂を根拠地として、遅れがちな子どもの学力促進に当たってきました。

小浜小学校では全教職員が一丸となって

関連する良元小学校、小浜小学校、長尾小学校においても不登校の子どもたちを何とか登校できる方策はないかと家庭訪問を繰り返しました。学級においてもその子たちを学級の宝として同和教育に取り組みました。特に小浜小学校では子どもの心を開かせ、「わたしも学校の主人公」という意識を培い、人間として生き抜く展望を持たせる教育を校長はじめ全教職員が積み重ねました。授業の改造、民話を取り入れた授業の展開、子どもを前面に出した行事等を行ない「底辺より出発する教育」を実践しました。教師たちは家庭訪問を繰り返し、親と教師のつどいを開催、隣保館では補充学習を始めました。これらの同和教育は全国でも先進的な実践で、全国各地に大きな影響を与えました。

名称は変われど地区の子どもたちのために

これらの地区での学習会は1963（昭和38）年度から「学力補充学級」と名付けられ3地区の小・中学校で計画的に開催されました。その後1970（昭和45）年度には「学力促進学級」となり、1974（昭和49）年度には「解放学級」に改名され事業の予算化もなされました。

解放学級の実施状況は

★ 解放学級の目的は

同和地区の児童生徒、高校生たちが過酷な差別の中で取り残されたものを早急に取り戻すとともに、差別にくじけず、逃げないで、真正面に立ち向かい、部落差別を完全になくすための学習をし、その意欲と実践力を養うことを目的としました。

★ 具体的な内容は

- ①基本的な生活習慣の育成 ②生活体験の充実 ③学習の仕方と基礎学力の充実
④仲間づくり ⑤部落差別をはじめとする人権学習

★ 最終的な目標は

- ①自分の進路を自らの手で選択していける実力を付けること。（公立高校全入の取り込み）
②差別を見抜き、差別に負けない、差別を許さない人間になること。

★ 実施方法は

各隣保館で放課後、週3回学年ごとに1時間半～2時間、主に該当校の先生が指導者となって実施。

そして、2005年（平成17）年度から廃止

2002（平成14）年の地対財特法失効にともない、対象地域への予算等の一般施策化によって、31年続いた解放学級が廃止され『学力は学校で、解放の意欲は地域で』の取り組みとなりました。